色彩教材研究会通信　No.455　2025.8.14
発行人：永田泰弘
nagataya@jcom.zaq.ne.jp

● 2025 年度会員を地区でみる

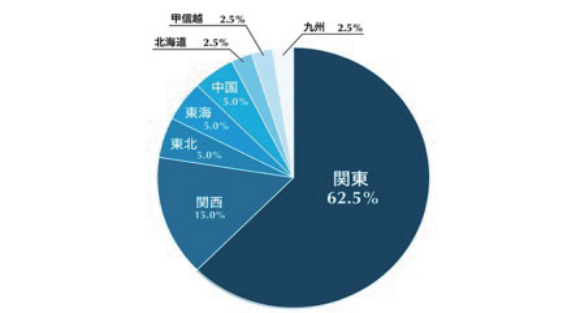
5 月 1 日に事務局から「名簿アップデート改め 2025 年度会員の募集」のメールが発信され、色彩教材研究会会員へのメール連絡が取れないケースも見られましたが、5 月 30 日時点で 40 名の方からの登録があり、新しい色彩教材研究会のキックオフとなりました。

取得したデータから会員の在住地区の割合をグラフ化してみました。

結果として関東地区が 62.5%を占める結果となりました。3 月に実施したギャラリートークは、実際に色彩教材をギャラリー化して対面開催することに意義がありますが、関東以外での実施のあり方については検討の余地がありそうです。

なお，会員を随時募集しておりますので、以下リンクよりご登録をお待ちしております。　（顧問：吉澤陽介）

https://forms.gle/L9tkKXrwYbc1YjtQ9



図．研究会会員の在住地区割合（n = 40）

●日本の伝統的な色名・納戸色

納戸色の出典は人情本「春色うめごよみ」(1833 年) に「腰帯はおなんど白茶の･･･」、人情本「春色恵の花」(1836 年) に「御納戸縮緬の頭巾を･･･」など、江戸時代に入ってから使われ始めた色名と思われる。

江戸時代の色には幕府による奢侈禁止令の影響が大きい。

納戸色は典型的な藍染の色で、藍で七～八回繰返し染めた単一染めである。

藍は阿波藩産の、タデ藍を発酵させた薬（すくも）を経た藍玉が流通する一方、日本の温暖な土地で作付けが奨励されはじめた木綿が、染めやすい上に、色が褪せにくいという特徴を持つことから、この時代に各地で藍染業の紺屋（こうや）が増えていった。

納戸とは衣類・調度類・機材などを収めておく屋内の物置部屋を指す。

色名のいわれは納戸の入り口に使われた垂れ幕の色とも言われ、江戸幕府で、将軍の衣服・調度を管理し、諸侯・旗本からの品や、賜与される金銀・諸物に関する事務を管轄する御納戸役の制服とされた衣裳の色からともいわれて、色名に尊敬の接頭語の「御」がつく理由であろう。東京都新宿区に、納戸町の地名が残っている。　（永田泰弘）

●大辞泉ひろいよみ　87ーこ

黒衣：こくい。黒色の衣服。特に、仏教の僧の着る墨染の衣。また、牧師や修道女のまとう僧衣。こくえ。

黒雨：こくう。空を暗くするばかりに降る大雨。

黒影：こくえい。黒い影。また、遠方や暗い中にあって黒く見えるもの。

黒煙・黒烟：こくえん。黒い煙。くろけむり。

黒月：こくげつ。古代インドの暦法で、満月後の十六日から月末までの称。⇄白月。

黒業：こくごう。仏語。悪い行為。悪い果報を受ける、悪い行い。⇄白業。

極彩色：ごくさいしき。種々の鮮やかな色を用いた濃密な彩り。また、派手でけばけばしい色彩。派手な服装や厚化粧。

国際色：いろいろな国の人種や風俗が入りまじってかもし出される雰囲気。

黒子：こくし。ほくろ。

黒色素胞：こくしきそほう。動物の色素細胞で細胞質内にメラニン顆粒を多数含んでいるもの。

黒漆：こくしつ。黒色のうるし。また、それを塗ったもの。真っ黒で、つやがあること。漆黒。黒漆の太刀。

＊大辞泉：小学館発行国語辞典　（永田泰弘）